

会報

57号



住所	函館の歴史的風土を守る会
事務局	函館市五稜郭 43-9 五稜郭タワー内
TEL	:(0138)51-4785
FAX	:(0138)32-6390

20周年 実行委員会決まる!

6月7日開催された定期総会で20周年記念事業について、実行委員会を設置して取り組むことが決定された。

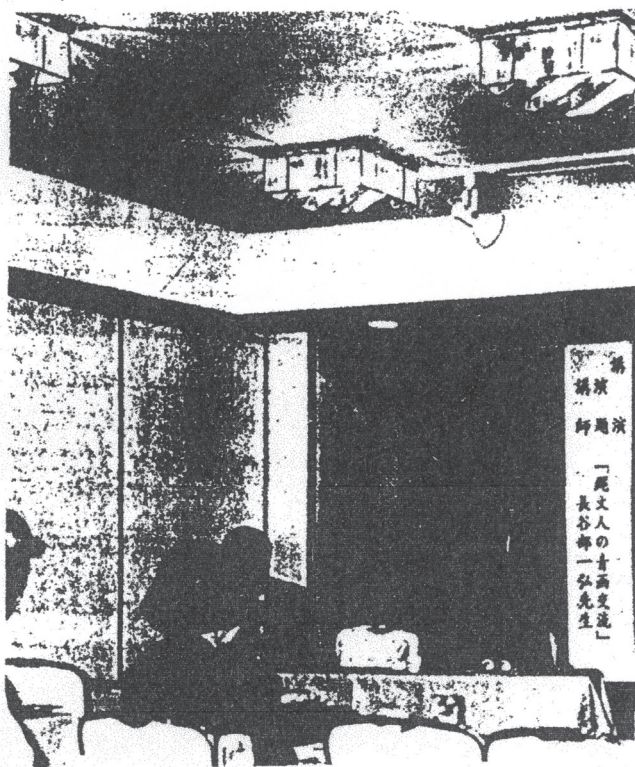
実行委員会は記念事業の企画、立案を担当し、その成案は、三役会及び運営委員会によって決定運営される。

実行委員長に落合治彦が承認され、引続いて、石井 満、対馬 誠、両角雅男、太田孝雄、の4名が実行委員として委員長より指名された。

平成9年度の事業については、総会資料と共に発送済みなので詳細は省くが、

- ① 函館市の歴史的建造物、史跡、文化遺産の活用。
- ② 道南の古代文化を訪ねる。
- ③ 今年度の当会主催の「催事」には「20周年記念〇〇」と云う「冠」をつける。等が決められた。

①については、旧丸井今井デパート(現市庁舎)旧カネモリビル等も視野に入れているが、旧西警察署を含む西浜岸壁周辺地域やウォーターフロント、弁天町、大黒町等を包括した函館市の未来都市景観について声を集約すべく観客



参加型のシンポジウム等を企画している。

②当初、「南北海道考古学情報交換会」が主催する青森市の三内丸山遺跡見学会に協賛する予定であったが時間的關係で独自計画を企画する。

8月31日まで開催の市立博物館の特別展「しよっぱい川の向う側」を見学し、七飯町の発掘現場か、石倉貝塚の整理事務所での作業状況のいずれかを見学して、埋蔵文化財の市民生活への活用の接点を見出したいと考えている。



《長谷部氏講演》

～青函交流の原典～

総会に先立つ記念講演会は市立函館博物館学芸係長の長谷部一弘氏による「縄文人の青函交流」についてお話を伺った。

プレ縄文の「石刃文化」は北海道と青森は共通しているが、縄文草創期の「隆起線土器群」は現在北海道で未発見である。続く縄文早期の「貝殻沈線文」及び「縄文尖底土器」の頃には函館空港遺跡群に代表されるように、青函の文化は一段と緊密さを増して来た。

以後、縄文晩期迄の約6300年間、津軽海峡は交流の障害ではなく、むしろ文化伝搬の交通手段として機能した観を呈している。……

……後段、ブガンソン博物館(フランス)の特別展及び市立博物館の特別展についての紹介が述べられた。……

開港5都市景観会議

横浜大会に参加を！

1993年神戸大会にはじまった「開港5都市景観会議」は長崎大会(1994年)、新潟大会(1996年)と受継がれ、そして昨年10月には函館大会で各地より多数の参加者が参集したことはまだ記憶に新しいところである。

いよいよシリーズの最終をしめくくる横浜大会が今年10月31日より11月2日迄の3日間行われることになった

詳しい日程については、会長及び広報担当(落合)まで請求されたい。

開港5都市景観会議横浜大会 構成 97.7.10

期日	時刻	場所	内容	参加者	備考	担当
第1日 10/31 (金)	12:30-	開港記念会館	受付			
	13:00-13:30	開港記念会館	開会式	5都市参加者		
	13:30-14:30	〃	横浜の紹介	5都市参加者		
	14:30-15:00	大棧橋へ	移動+乗船			
	15:00-16:00	はまどり	横浜港見学	5都市参加者	予約済み	
	16:30-19:00	開港記念会館	シンポジウム	一般参加あり	無料	
	16:30-17:30	(第1部)	対談(市長+荻野77)			
	17:30-19:00	(第2部)	ハナダチ'イスタツヨ			
	19:30-21:30	中華街	開港5都市懇親会	5都市参加者	有料	中華街
	21:30-		解散			
第2日 11/1 (土)	9:30	各現地	集合			
	9:30-12:00	分科会現地視察				
		A 開内(北側)～新港	【徒歩】	一般参加あり	一般参加は開内を渡す会	
		B 馬車道～新港～MM21	【徒歩】	〃	〃	馬車道
		C 山下公園～元町～中華街	【徒歩】	〃	〃	中華街
		D 野毛～伊勢佐木～馬車道～中華街～元町	【バス】	〃	〃	元町
		E 三溪園～山手	【バス】	〃	〃	山手
	12:00-13:30	昼食				各分科会
	13:30	各会場	集合			
	13:30-16:30	分科会会議				
	A 県立博物館	歴史的資産の保存、活用	一般参加あり	一般参加は開内を渡す会		
	B 日本丸研習室	成長する開港都市	〃	〃	馬車道	
	C 広東会館	外国文化が生きる街	〃	〃	中華街	
	D 大棧橋4-4	街づくりのシステム	〃	〃	元町	
	E 近代文学館	開港都市の生活文化	〃	〃	山手	
	17:00-18:00	(会場未定)	代表者会議	各都市代表者		
第3日 11/2 (日)	9:30-11:30	開港記念会館	分科会報告、総括会議	5都市参加者		
	11:30-12:00	〃	閉会式/次年度引継	〃		

歴史的港湾施設について

大町地区の「ウォーターフロント・プロムナード」を歩いてみませんか！

との呼びかけで、平成9年6月21日に、函館港からコンブ・ロードを偲んで、海同会館・コンブ記念館などを見ながら旧駅棧橋後まで歩いて見ました。

今回このような会を催したきっかけですが、函館市で建設していたウォーターフロントプロムナード（大町地区護岸整備）が平成9年3月に完成したこともあり、会の皆さんとコンブ・ロードを偲んで、ウォーターフロントの散策を行ったものです。

このプロムナード計画は、函館市が昭和63～平成元年度に函館港の将来構想である函館港再開発調査において、港を市民に親しまれる空間とするため、末広・大町地区（西部ウォーターフロント地区）を親水プロムナード化する計画をもっておりました。

また、この地区は、函館港の発祥の地でもあり、築港当時の石積護岸が残っていたことから、

- (1) 親水性と歴史的石積護岸への親しみを高めるため護岸レベルに変化を付ける。
- (2) 歴史的建造物の持つ歴史的イメージを導入する。
- (3) 新島裏の碑と既存の船揚場の形状を生かしつつ一体的に整備する。
- (4) 極力護岸石を活用する。
- (5) 金森倉庫からの連続性を持たせる。
- (6) 夜の景観に配慮した照明計画とする。

としておりました。

市は、工事着手前の平成6年に事業計画を会に提示したものであり、その後、会としても勉強会を開催し、市と何度もやり取りを行ったものであります。

その結果、会としては、市に、旧小熊倉庫の

護岸整備に当たり、「市民や周辺地区の地権者の理解、協力、参加が大切。地域活性化や景観形成に役立つものでなければならぬとし、整備に当たり、過去に船着き場や舟揚げ場として使われていた経緯から歴史的価値があり、これらの施設を計画に可能な限り取り入れることなど」を申し入れる要望書を提出いたしました。

市としても、この要望書を受け、「皆さんの意見を取り入れ設計したい。」とのべ、近年まで同地区にあった「斜路」と呼ばれる簡易な舟揚げ場を3か所で復元するなどの考え方の提示しました。

その後、会としても、市と一緒に、見学会・勉強会を重ねてきたものであります。この事業も、平成9年3月をもって完成したことから、函館市の担当の方々と一緒に親水プロムナードの見学会を開催したものです。

事業内容としては、平成5年度に調査・設計を行い、平成6、7、8年度の3か年でプロムナード（護岸整備）の40%を総事業費約4億6千万円で整備したそうです。

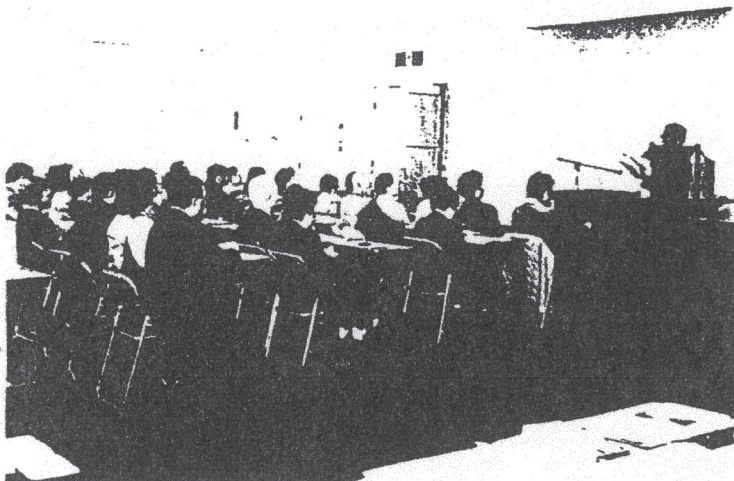
会としても、整備にあたり、函館市とは、いろいろやりとりをし、最小限の要望は取り入れてもらったと考えております。生まれ変わったという印象だが、できれば今後、周辺地域にもう一つポイントを設け、生活空間として広がりを持たせていきたいと思っております。

市は、今後、金森倉庫・ベイ函館までの区間をこのように散策路としての整備を行っていきたいと考えておりました。

今後、会としてもこのように行政と一体となって、整備を行っていきたいと考えております。

盛会呈した勉強会!

「道南の昔話～方言は生きている～」のテーマで、久保孝夫先生(函館大妻高校教諭)による講演会(勉強会)が、去る4月19日の午後開催された。最近失われつつある方言の良さをもう一度勉強しようとする試みに多勢の市民が参集し、会場となった函館海産商同業協同組合会館3階の大講堂も立錐の余地もない程であった。講師の巧みな話術に時の経つのも忘れ、今後も是非企画するようにとの要望が参加者より寄せられた。



函 館 新 聞

石張りの親水プロムナードを見学する参加者



石張り舗装いいわね

親水プロムナード見学

【金谷信】函館の歴史的風土を守る会(浜島園四郎会長)主催の歴史的港灣施設見学会が21日午後3時から西部ウオーターフロント地区一帯で行われ、会員ら約20人がこの春、整備を終えたばかりの大町地区親水プロムナードを見て回った。同プロムナードは市が93年度に準備に着手、総事業費4億6000万円を投じて3月末に完成した。延長約400m。老朽化した石積式の護岸や船揚げ場(亀腹)などを再生、石張り舗装の散策路も整備し、憩いの空間を造った。見学会はこれを受けて企画、市港灣部の鈴木義尚施設課長らの案内で、外国人居留地跡の「新島嶼海外航の地碑」から緑の島、西ふ頭方面など一帯をのんびりと見て歩いた。浜島会長は「整備にあたり(市とは)いろいろなやりとりをし、最小限の要望は取り入れてもらった。生まれ変わったという印象だが、できれば今後、周辺の地域にもう一つポイントを設け、生活空間としての広がりを持たせるといいと思う」と話していた。

歴風会

H-9-6-2

《事務局日記》

- ◇3月11日 運営委員会・チャリティー実行委員会 於：五稜郭タワー
- ◇4月19日 「道南の昔話～方言は生きている～」開催
- ◇5月14日 運営委員会
 - 20周年実行委員会について
 - 定期総会について
- ◇5月28日 運営委員会
 - 総会記念講演について
 - 20周年実行委員長選出について
- ◇6月7日 平成9年度「定期総会」 於：五稜郭タワー
記念講演「縄文人の青函交流」 長谷部 一弘(市立函館博物館学芸係長)
- ◇6月21日 「歴史的港灣施設見学会」開催
- ◇7月9日 運営委員会 於：五稜郭タワー
- ◇7月23日 運営委員会